

第4回北区民まちづくり会議 摘録（平成25年3月12日（火）午前10時～11時30分）

【開会】

【区長挨拶】

皆様、おはようございます。お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。第4回北区民まちづくり会議を始めさせていただきます。24年度の取組の報告と、それを踏まえさらに新たな発想で、25年度の計画を皆様とともに考えていく会議にしたいと思っております。

昨日、2年前に東日本大震災が発生した3月11日には、京都市が全国で初めてシェイクアウト訓練を行い、午前10時30分の京都市内の携帯電話への一斉送信を合図に、8万人の方が訓練に参加され大きな反響を頂きました。また、その前日の10日には東日本大震災復興支援の京都マラソンが行われ、大成功のうちに無事終了しております。今後も、安心・安全をどう高めていくかが最大の課題であります。

振り返りますと、昨年7月19日に北区4大学と行政3機関とで地域包括連携協定を締結いたしました。北区で学ぶ学生の生活を守り、立派な社会人として送り出したという思いです。そして、全国から北区へ優秀な学生が集まり、学生のまちとして発展、また若い力とともに北区のまちづくりを高めていきたいといった思いもあります。

本日は行われております市会の総括質疑でも、世界中からの集客、そのための情報発信が、繰り返し議員から述べられているようです。北区では、平成27年に上賀茂神社において、42回目の式年遷宮が行われ、歴史的に大変大きな催しとなると思われまします。こういった大きな催しを契機に、集客に向けた情報発信の取組を進めていきたいと思っております。

北部山間では、まちづくり構想の策定が進められています。雲ヶ畑学区では京都バスの運行休止に伴い、地元の公共交通の確保のため、ヤサカ自動車の協力のもと、雲ヶ畑バス「もくもく号」の運行が始まり大変好評です。また北部山間ならではのウォーキング、山登り、自然観察等の魅力を発信し、集客につなげようとしております。先日は、中川学区の出身で、現在は東京で木材業を営む方が、中川のまちづくりへの取組に賛同し、「東京からみた北区」といった視点のお話をして下さいました。いよいよ北部山間の取組が本物になってきたと感慨を覚えました。

最後に、最近私が、安心・安全と情報発信について問題意識をもったことを一つご紹介します。

大谷大学の鷺田先生が、今年の1月21日の京都新聞で防災、防犯、防火、安心・安全の取組を進めるためのコミュニティラジオの重要性を書かれています。ラジオが東北でも有効に活用されていること、地域の人々のよりどころとなっていることなどといった内容でした。三条御幸町にある日本で初めてのNPOラジオ局「三条ラジオカフェ」に御相談したところ、京都市内でまちづくりのために、放送エリアを広げた

いという話を聞いて、北区の大学の放送設備を使って、それをできないかと考えております。コミュニティラジオによって大学独自の情報発信、大学と学生を結ぶ情報発信、大学と地域を結ぶ情報発信をして、学生に言葉をもってもらおうという計画です。まだ大学にはお話できておりませんが、興味がおありでしたら私にご連絡いただきたいと思っております。

本日のこの会議を核として、まちづくりの輪を広げていただけることを期待しております。

【議事】

(1) 平成 25 年度の主な事業について

① 北区民まちづくり提案支援事業について

事務局：北区民まちづくり提案支援事業について説明します。資料は、これまでに終了している事業、活動中の事業、これから活動予定の事業に分けてまとめております。

終了事業のうち、1 から 6 は、前回の会議までに終了しており、説明させていただいております。7 から 10 が前回以降、今回までに終了した取組です。7 は地域の防災への取組、8 は子供に地域への愛着を持ってもらう取組、9 はエコ学区の取組、10 は高齢者福祉の取組です。

現在活動中の取組では、11、12、18、19 は地域の魅力を発信する取組、13 は高齢者福祉の取組、14 は空き家を活用した文化活動発展の取組、15、16、20 は子供や若者と地域との関わりの取組、17 は子供たちへの防災啓発の取組となっております。

イメージをつかんでいただくために、資料 2 に 7、10、20 の実施状況の写真を添付しております。

以上が事業の状況です。

座長：紹介いただいた様々な北区民まちづくり事業が地域で進められているところでございます。

例えば 8 の上賀茂文化検定（中級）については、副読本の作成に携わられた方々の御尽力のお陰で副読本自体が地域の魅力を掘り下げる大変興味深いものとなっております。初級、中級に引き続き、上級も作れたらと意欲も持っておられるようです。こういった地域の盛り上がりについて御意見をおねがいたします。

委員：上賀茂文化検定につきましては、地域の方から「はじめて知ったこともある」というご意見もうかがっており、改めて地域の魅力を再発見するといったことにつながる、このような取組の重要性を感じております。

座長：森の文化祭について、感想をお願いいたします。

委員：6 につきましては、「森の文化祭」というイベントの中で、雲ヶ畑の重要な産業である山仕事について多くの来場者の興味を深めることができました。後継者不足による林業の衰退という問題もありますが、森林に興味を持つ京都大学の学生サークルの

協力もあり、次世代に繋げていくという希望をもっております。年1回ですがたくさんの方に来ていただき、広がってきたなと思っています。

座長：委員の皆様には、この北区民まちづくり提案事業への、日頃のご協力を感謝しております。これからもよろしく願いいたします。

② 共汗型事業について

事務局：共汗型事業は、区民の皆様と、区役所が共に汗して事業を推進する制度でございます。

1の「北区民ふれあい事業」については、11月15日から12月25日に人権団体の施設、福祉施設にご協力いただきスタンプラリーを開催しました。また1月26日、27日には北区民冬まつり「文化フェスティバル」が北文化会館にて行われ、地域交流が図られました。

2の「北部山間地域まちづくりビジョンの策定」ですが、北山三学区の全戸を対象にアンケートを行い、取りまとめました。また、他地域の状況について学ぶため、南山城村へも視察を行っております。

3の「気軽に集い学びあう交流の機会づくり事業」、4の「一人暮らし高齢者などの困りごと支援育成事業」については、北区の社会福祉協議会にもご協力いただき調査を行っております。また、サービス提供者の育成なども検討しております。

5の「地域力を結集した安心・安全のまちづくり活動」ですが、現在、大学と連携して事故やけがの分析を行い、予防に重点を置いて安心安全のまちづくりを進めているところでございます。

新しく加わりました、6の「地域防災力の向上」ですが、学区ごとの避難所運営マニュアル策定に合わせて実践の取組を支援していくという事業でございます。

座長：ご質問、ご意見などありませんか？

これらの事業につきましては、北区にある4大学のご協力にも感謝しております。

(2) 北区基本計画～はつらつ北区プラン～に係る事業の進捗状況 及び 平成25年度北区運営方針（案）について

事務局：資料4は、北区基本計画の事業の取組状況をまとめたものです。基本計画に掲げる10の分野と、分野ごとの重点取り組み、実施状況を表記しています。

現在、主要な取組73項目のうち58項目、およそ8割の事業を実施しています。

資料5は25年度の策定の案です。24年度からの継続事業が多いですが、(3)の⑥⑪⑫の3事業が新しく加わっております。

事務局：席上に資料を配布しておりますが、2月23日から24日の2日間、地域密着型福祉全国セミナーが北区で行われましたのでご紹介します。1日目は、大宮学区、紫野学区、待鳳学区、紫竹学区、鷹峯学区の各会場でフィールドワークが行われました。大

宮学区では「災害時要配慮者登録制度と見守り安心ネットワーク」、紫竹学区では「要援護者に配慮した避難所運営訓練」、紫野学区では「災害時要援護者の組織化」、待鳳学区では「若い世代への子ども防災教育」、鷹峯学区では「福祉避難所について考える」といったそれぞれのテーマに沿って、避難訓練や講習会などが実施されました。2日目は、佛教大学で参加型討論シンポジウムが行われ、阪神大震災で被災されたコーディネーターを中心として話し合われました。福祉のまちづくりを構築していくなかで、普段の結びつき、絆の強さが実際に災害にあったときの対応にも生かされてくるといったお話を聞かせていただきました。

座長：2日目の開催会場でありました佛教大学様から、地域連携についてのお考えを当日の様子などを含めてお話いただけますでしょうか。

委員：佛教大学では、「学生の自主的なボランティア」というのがボランティアの方針でございます。今回、シンポジウムにむけて学生が早くから準備等協力させていただきました。大学内での様子を見ておまして、今回のセミナーは大変良かったと思っております。今回1回限りで終わるのではなく、どんどん広がりを増し継続することが大事だなと思っております。

座長：皆様、何かご意見ご質問などはございませんでしょうか。

区長：あるいは、来年はこんなことをやってはどうか、といった御提案、ご感想等聞かせていただければ、新年度に参考にさせていただきたいと思えます。

委員：今年初めて、会議に参加させていただいて、今回御報告のあった20のまちづくり提案支援事業について審査させていただきました。現代は高齢化社会といわれております。私自身も75歳で高齢の自覚を持って生活しております。ですが、高齢化社会は反面少子化社会でもあります。改めて20の事業内容を見ますと、やはり高齢者に対する事業が目立っており、子育てに関する事業が少なく思います。是非、子育てに関する事業を増やしていただきたく思います。

座長：ありがとうございます。他にご意見等ございませんでしょうか。

【その他】

事務局：今回の会議をもって交代される委員をお知らせいたします。永瀬委員、波多野委員です。報告は以上でございます。

座長：まだご発言を頂いていない委員の皆様、ご意見ございませんでしょうか。

委員：北区には包括連携協定を結んでいる大きな大学が、4つそろっています。学生と高齢者の交流を通して助けあい、学びあうような、学生にとってもメリットがあり、そして地域の魅力の発信につながる事業を期待しています。

委員：今日、色々な取組を御紹介いただきまして、こういった会議の場は皆様のお話を聞く大切な機会であると改めて感じました。また、大学の学生も、北区の色々な場でお手伝いさせて頂けるように、私が窓口となりますので、これからもよろしくお願いたします。

- 委員：先日、休校中の雲ヶ畑小学校で、京都造形大学の学生が美術作品の展示会を3週間行いました。その際に感じたことは、学生の側にもメリットが必要であるということです。奉仕だけを求めるのではなく、何かプラスになるものがないと、交流はスムーズにいかないし、続かないです。
- 委員：そうですね。以前、地域に下宿している学生に、地域の役員などをやってもらう、という案がありましたが、結局実現には至っていません。そのとき、同じように感じました。プロ野球に例えると、公式戦は盛り上がらないのに、WBCはお祭り騒ぎです。委員側だけでなく、地域全体で盛り上がるようなイベントが必要だと思います。
- 委員：今回、代理として参加させて頂きましたが、こんなにたくさんの取組をされていることに驚きました。地域に学生を育てていただく地域連携を大切に考えておりますので、そういう場を設けていただきたいと思いますと思っております。
- 委員：主に春まつりにご協力させて頂いております。私どもの学区でも色々と福祉への取組をしていますが、そのことについての紹介がないのは個人的にさびしく思います。
- 座長：学生は学内での勉強だけでなく、地域と関わることで社会人として成長になると思います。いままでのお話から、学生に対して地域連携のメリット、面白い、地域との交わりが自分の成長になるといったことを伝えること、そして地域に入ってきやすい仕掛けづくりが必要かと感じました。協定を活かして、そのための話し合いを大学と区役所間で持ち、活動の場を作って知らせていくことが必要かと思いました。
- 区長：区役所でもその必要性を感じ、1度話し合いの場を設けております。これからも回数を重ね、さまざまな提案に沿って個別に部会をもっていきたいと思っております。また、区役所の建物の西隣、保健センターの3階にあります北青少年活動センターにおいて、若者が不定期にまちづくりについて議論していく場を作り、いずれ各大学にもご参加いただけるようにと思っております。北青少年活動センターが、このことについて大変ご理解を示してくださり、まちづくりアドバイザーが中心になってまちづくりについて議論しています。さらに一歩進めて学生100人委員会であるとか、インターネットでの議論であるとか、若者にどんどん参加してもらえることも考えています。大学から学生に呼び掛けていただき、大学単位でご参加いただくなども、来年度以降に検討していきたいと考えています。
- 座長：皆様、さまざまなご意見ありがとうございました。

(終了)